

平成 22 年 10 月 21 日

プロセス・トライボロジー分科会委員各位

主査 土屋 能成

プロセス・トライボロジー分科会第128回研究会（見学付き）のご案内

貴社益々御盛栄のこととお慶び申し上げます。平素より当分科会事業に御理解ならびに御協力頂きありがとうございます。さて、第128回の研究会を下記の予定で開催します。研究会のテーマは「非鉄金属材料の圧延加工における潤滑の現状と対策」となっております。御参加頂けますようご案内申し上げます。

（委員の代理の方の参加も可能です。委員（代理）以外の方のオブザーバー参加（参加費¥3,000）も受け付けます。）

日 時：平成22年12月1日（水）13:00～16:30

会 場：三菱伸銅(株) 三宝製作所 第1会議室
（〒590-0906 大阪府堺市堺区三宝町8丁目374番地）

交 通：①南海電鉄本線『七道駅』下車 西へ徒歩15分
②南海電鉄本線『堺駅』下車 タクシーにて約15分
③地下鉄四ツ橋線『住之江公園駅』下車 C階段→3番出口
大阪市営バス 路線29A 堺駅西口行き『松屋』下車徒歩5分 又は、タクシーにて約5分
地図は三菱伸銅(株)のホームページ (<http://www.mitsubishi-shindoh.com/>) でご確認ください。

第128回研究会：

(1) 主査挨拶（13:00～13:10）

(2) 話題提供（13:10～14:50）（質疑各5分程度含む）

13:10～13:50 「圧延オイルピットと各因子について」 三菱伸銅(株) 門 義純 君

銅及び銅合金はリードフレーム材、端子・コネクタ、電装部品、ヒートシンク等の電子部品に使用されている。特にリードフレーム材は半導体パッケージに使用されている金属加工製品であり、実装性の向上ニーズに伴い、ユーザーからは、より平滑さのある表面を求められている。表面の平滑さを阻害する要因としては、冷間圧延時のオイルピットの発生があるが、一般的にオイルピットは母材、ワークロール、クーラント等の各因子が影響することが知られている。それらの因子とオイルピットに及ぼす影響を調査した事例を報告する。

13:50～14:30 「非鉄板用水溶性潤滑剤の現状と課題」 大同化学工業(株) 技術研究所 喜多 良彦 君

アルミ・アルミ合金及び銅・銅合金の板製造工程では種々の水溶性潤滑油剤が使用されている。特に銅・銅合金の水溶性潤滑剤は前工程で使用され、仕上げ工程ではニート油が使用されているため、あまり注目されなかった。しかし、近年難加工材の増加、生産性・品質の向上等が求められ、仕上げ圧延では対処が難しくなり、水溶性潤滑油が見直されている。水溶性潤滑油の開発事例、課題等について報告する。

(3) 三菱伸銅(株)見学（同業者の方はお断りする場合があります。お断りする場合は11/24以降、12/1までにご連絡いたします。）

14:45～15:00 会社概要説明

三菱伸銅(株) 上野 輝生君

15:00～16:25 工場見学および質疑応答

(4) 主査閉会挨拶（16:25～16:30）

申込先：ryo@me.es.osaka-u.ac.jp, Fax: 06-6850-6199（できる限り、e-mailでお願いいたします。）

(1) 御氏名、(2) 御所属、もし連絡先（住所、電話、ファックス、e-mail等）に変更がありましたら、お知らせ下さい。）

申込締切：11月24日（水）17:00